

24. 唾液分泌量に対するガム咀嚼の影響に就いて

東京歯科大 ○伊藤秀三郎
武田 安子

1. ガムは食物と同様咀嚼によって味覚受容器等を刺激し、唾液の分泌を促すのである。しかし食物と異なることは嚥下することなく口中に在る限りガムベースの部分が残留し常に唾液の分泌を咀嚼することによって続けられるのである。

扱て演者等は唾液の分泌量にガム咀嚼が如何に影響するか等を検索した所二三の知見を得たので此処に報告する次第である。

2. 唾液量（耳下腺）の測定には耳下腺唾液測定装置を用いた。尚被験者としては19～24才の健康なる女子学生を選んだ。

3. (1)ガム咀嚼の際其種類によって唾液の分泌様相は異なる。(2)ガム咀嚼時間と唾液分泌回復時間とは比例関係にある。(3)ガム咀嚼は味質溶液による唾液分泌量を抑制する。